

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：32688

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K02060

研究課題名(和文) アメリカ統治下の沖縄における米国政府制作映像に関する総合的研究

研究課題名(英文) A Comprehensive Study of U.S. Government Produced Films under U.S. Rule of Okinawa

研究代表者

名嘉山 リサ (Nakayama, Risa)

和光大学・表現学部・准教授

研究者番号：80455188

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：戦後の沖縄で、アメリカ軍政府・民政府は、ニュース映画、教育映画、ドキュメンタリー映画、テレビ番組など、映像を使った啓蒙活動・教育活動・広報活動に尽力した。本研究では、1945年から1972年までの米国統治時代の沖縄における、アメリカ政府関係機関制作映像の制作背景、流通、上映や受容について公文書を中心に調査をした。沖縄内で上映・放映されたニュース映画、ドキュメンタリー映画、テレビ番組だけでなく、米国民政府や米軍が制作協力をした沖縄関連の劇映画についても、その内容を分析し、政府の思惑などを公文書から明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究期間に、共著『よみがえる 沖縄 米国施政権下のテレビ映像 琉球列島米国民政府(USCAR)の時代』を出版した。日本の占領期に制作されたCIE映画などに関してはすでに様々な研究がなされているが、27年間にわたる沖縄の米国統治下で米国によって制作された映像に関してはこれまで体系的な研究が行われてこなかった。本書では、筆者が収集した映像や調査した米民政府のテレビ番組についての情報を体系的にまとめ、インタビューなども加えて資料的にも有用になるような形で構成し、選定した映像をDVDとしてもまとめた。このように、本研究は、米統治下沖縄研究や映像研究の未開拓部分に一石を投じることができたと考える。

研究成果の概要(英文)： In postwar Okinawa, the U.S. Military Government and the U. S. Civil Administration of the Ryukyu Islands engaged in educational and public relations activities using news films, educational films, documentaries, and TV programs. Mainly referring to official documents, this study focused on the production background, distribution, screening and reception of such U. S. government produced films made during the U. S. rule of Okinawa from 1945 to 1972. In addition to the news films, documentary films and TV programs shown and broadcasted in Okinawa, the study also analyzed feature films that the U. S. government and military cooperated in the production and clarified their motives for cooperation from official documents.

研究分野：映画研究

キーワード：琉球列島米国民政府 USCAR フィルム テレビ 占領政策 広報外交

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は2013年度から2015年度まで「琉球列島米国民政府(USCAR)フィルムと占領下の沖縄」(課題番号25760011)という課題名で、戦後長期間にわたり沖縄を統治した米国民政府の広報局によって制作されたニュース映画、ドキュメンタリー映画、テレビ番組などに関する研究を行った。米民政府広報局の映像制作に関しては例えば Binnendijk, Johannes A. “The Dynamics of Okinawa Reversion 1945-69” (1973年)や吉本秀子『米国の沖縄占領と情報政策 軍事主義の矛盾とカモフラージュ』(2015年)などの先行研究の中で取り上げられているが、いずれも映像を中心とした研究ではなかった。当時制作された映像の大部分が、16ミリあるいは35ミリのフィルムで、その一部が米国国立公文書館に所蔵されているが、フィルムの状態がよくないため、個人での閲覧は不可であり、全く研究が進んでいなかった。そのため、前研究では2,000本以上あるフィルムをなるべく多くデジタル化し収集することにし、まずは編集されたといわれる約300本のフィルムのうち、沖縄県公文書館が所蔵している約100本を除いた200本の収集に着手した。

研究開始当初は外部業者にデジタル化を委託することを考えていたが、実際に米国国立公文書館指定の業者に見積もりを依頼したところ、予想をはるかに超える費用(約750万/200本)が発生することが判明した。一方、自ら公文書館に赴きデジタル化を申請し、公文書館がDVD化したものを複製するのは無料であったため、その方法を採用ことにした。しかし、その場合、1か月に申請できる本数が10本と制限されていたうえに、頻繁に通えないため、収集は効率的ではなかった。

しかし、幸いにも2016年度にワシントンDCで在外研究を行うことができ、収集できる映像の一応の目途が立った。とはいえ、まだまだ2,000本の収集には程遠く、全体像を把握するためには、近年学界でもアウトテイクの重要性が指摘されているように、編集されたか否かにかかわらず撮られた映像を確認することは重要であり、引き続きこれらのフィルムを収集する必要性があった。また、米国公文書館等で米国民政府、広報局の文書などを調査したものの、USCARのフィルム制作に関わるまとまった資料がなく、あらゆる文書の中から断片的な情報を探し集約していくという作業であった。資料調査に膨大な時間がかかることが分かった。それまで手付かずの分野だったため、調査で初めて明らかになったことなどは多々あったが、広報局の文書が統治後期に偏っていることもあり不明な点も多く、さらなる徹底した調査が必要であると実感した。

2. 研究の目的

上記のような前研究の成果と課題を土台に、本研究では前研究を発展させ以下の点を明らかにすることを目的とした。

1) 前研究で完遂できなかったフィルムの収集を継続し、何がどのように撮られていたのか、またどのように上映・放映されていたのか、仔細に分析・分類する。2) 調査対象を広げ、米民政府下(1950-1972)の沖縄で制作された映像のみならず、米軍政府時代(1945-1950)に日本本土やアメリカで制作され沖縄で上映されたGHQ/SCAPのCIE映画やUSIS作品群なども範疇にする。それらの作品は復帰直前まで琉米文化センター、学校などの公共施設や移動上映などで盛んに上映されていた。沖縄で上映された映画はどのような基準でテーマや作品が選ばれたのか、占領前期・中期・後期で上映した作品の内容が変わっていったのか、琉米親善に映画がどのように使われたのか等を明らかにする。3) 1950年代に制作された『琉球ニュース』についてはなかなか資料が見つからなかったが、委託された制作者が日本外国人特派員協会やワーナー・ブラザーズと関係があることが分かった。その制作背景、民政府との折衝などについての資料を探し、映像分析も行う。4) USCARの資料を調査した過程で、沖縄と東京やワシントンなどの中央とのかわりや、USISなど他の政府や軍機関とのかわりも見えてきたため、USCARの資料に限った調査だけでは不十分であることが分かった。国務省、国防総省、陸・空・海軍、GHQ/SCAP文書などあらゆる文書を調査し、USCARの映像による広報活動と上部組織との関わりなど多角的に調査する。5) 資料調査や映像収集と並行して、引き続き当時の関係者への聞き取り調査もを行い、文書からは得られない生の情報を得、映像制作、上映・放映の実態を把握する。27年間のアメリカ統治時代におけるアメリカ政府制作映像の実態を探り、アメリカが沖縄で行った映像を使ったパブリック・ディプロマシー/プロパガンダや文化政策を総合的に検証する。

3. 研究の方法

1) 米民政府制作フィルムのデジタル化、収集、分析、ソフト化を行い、研究者をはじめ一般市民に普及を図る。沖縄の新聞調査(映画上映、テレビ放送関連情報の収集)を行い、上映・放映の実態を探る。映像の仔細な分析を行う。2) CIE/USIS映画の沖縄への導入の背景や上映についての調査を行い、実態を探る。3) ニュース映画についての基礎調査および「琉球ニュース」制作者と米民政府との交渉記録等の調査をする。4) 米国民政府がやり取りした他の米政府機関や軍関連の文書を調査し、更なる情報収集に努める。5) 沖縄側・アメリカ側の関係者へ

の聞き取り調査を行う。

4. 研究成果

コロナ禍の中断を経て、現在は米国立公文書館に1か月にデジタル化申請できる本数が5本になったが(その代わり遠隔申請・収集が可能になった)、一部業者にもデジタル化を依頼した結果、本研究期間に約500本のフィルムを収集することができた。その中からいくつか厳選・分類し、『よみがえる 沖縄 米国施政権下のテレビ映像 琉球列島米国民政府(USCAR)の時代』DVD編として、解説付きで出版した。フィルムの収集が進んだとはいえ、いまだ全体の半分にも達していないため、引き続き米国立公文書館に依頼し、今後も収集を続けていきたいと考えている。

米国民政府広報局が制作したテレビ番組の詳細については、『よみがえる 沖縄 米国施政権下のテレビ映像 琉球列島米国民政府(USCAR)の時代』書籍編の中でまとめた。米国民政府提供番組の放映状況(1960年から1972年まで)を沖縄の県紙二紙(琉球新報・沖縄タイムス)のテレビ欄から調べ上げ、まとめるとともに、番組の種類や特徴などについて詳細に分析した。また、番組を制作した関係者へのインタビューも掲載した。本書はこれまで協力しながら調査を進めてきた研究者との共編著であり、それぞれの専門性を生かした幅広い観点から米統治期沖縄における映像を用いた広報活動を詳細に分析するとともに、沖縄県内外の研究者や実務者によるコラムや資料編も充実しており、研究者から学生、一般の読者のニーズにもこたえられるような構成を試みた。また、上記のDVD編は、調査の過程で発掘したナレーション原稿をもとに、戦後沖縄のアナウンサー第一号、川平朝清氏によるナレーションを無声の映像に加え復元するという作業も行った。他では見られない企画で、書評などでもよい反響を得た。しかし、テレビ番組については、まだ書けなかった部分もあるため、引き続き研究を続けていく。

沖縄で上映されたCIE映画やUSIS映画や琉米親善に関しては、「米占領初期沖縄におけるフィルムの利用 CIE映画や琉球ニュースを中心に」や「USCAR制作番組と琉米親善」と題した研究発表などで取り上げた。1950年までに、GHQ/SCAPから130本以上のドキュメンタリー映画やニュース映画が送られたということ、フィルムの選定基準は、韓国やドイツと同様であったこと、上映場所や上映方法などがわかったが、まだ情報が断片的な部分も多いため、資料の収集を含め、引き続き研究を続ける予定である。

1950年代に制作された『琉球ニュース』については、「アメリカ製ニュース映画『琉球ニュース』の中の戦後沖縄」として概要などをまとめたり、研究発表で取り上げたりしたが、引き続き詳細な分析などを行っていく。

そのほか、米国民政府の元職員(米国人)や、民政府に依頼されて番組を制作した方へ行ったインタビューをまとめた。後者に関しては、「米国民政府企画テレビ映画「沖縄の生産業シリーズ」(1965年)」として研究発表も行い、上述の書籍でも取り上げた。復元した映像の内容が、久米島と琉球電力公社に関するもので、当時行われていた離島の電化計画のPRの一環であった。そのことに関する「The Ryukyu Electric Power Corporation and Its Offshore Islands Electrification Project Broadcasted on TV in 1971」と題した発表を国際学会で行った。また、別の国際学会では、琉米親善を中心に取り上げ、その代表的なテレビ番組(以前復元したものの)の上映も行った。復元版の上映と解説は、市民講座でも行った。

資料調査の過程で偶然見つけた資料により、米国民政府やその他の省庁と日本の劇映画制作とのかかわり(介入)があったことが判明し、新たな知見も得られた。その成果は、「幻の沖縄映画『太陽は撃てない』 宮城嗣吉、大映、米政府間での製作構想をめぐって」や「反70年安保闘争米軍協力映画『ある兵士の賭け』(1970年)」という研究発表や、「幻の海兵隊協力沖縄戦映画『太陽は撃てない』 製作協力体制構築の過程と破綻」と題した論文で発表した。また、ある図書館で調査をした際に、偶然 USCAR制作のフィルムと思われる作品が保管されていたことが分かった。それに関しては、「起ちあがっていない琉球 沖縄ディアスポラ向けに制作された『起ちあがる琉球』(1953)」と題した発表で取り上げた。今後も同様な事例がないか注視していきたい。

全体的に、研究開始当初より大分研究を進めることができた。しかし、まだ不十分と思われることもいくつかあるため、今後も本研究を続け、より深化させていきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 名嘉山リサ	4. 巻 22
2. 論文標題 川内康範作『太陽は撃てない』の帰着点 劇映画、テレビ映画、連載小説から少年向け反戦小説へ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 和光大学表現学部紀要	6. 最初と最後の頁 13-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 名嘉山リサ	4. 巻 21
2. 論文標題 幻の海兵隊協力沖縄戦映画『太陽は撃てない』 製作協力体制構築の過程と破綻	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Intelligence	6. 最初と最後の頁 108-119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 名嘉山リサ	4. 巻 12
2. 論文標題 アメリカ製ニュース映画『琉球ニュース』の中の戦後沖縄	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ドキュメンタリーマガジンneoneo 総特集 沖縄のドキュメンタリー	6. 最初と最後の頁 22-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 名嘉山リサ	4. 巻 19
2. 論文標題 牧野守氏に聞く一米統治下沖縄でのテレビ映画『沖縄の生産業』シリーズ製作を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 和光大学表現学部紀要	6. 最初と最後の頁 45-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 名嘉山リサ	4. 巻 12
2. 論文標題 サミュエル・H・キタムラ氏インタビュー 米国民政府制作映像や映画とのかかわりを中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 沖縄工業高等専門学校紀要	6. 最初と最後の頁 21-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件 (うち招待講演 7件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 Risa Nakayama
2. 発表標題 The Ryukyu Electric Power Corporation and Its Offshore Islands Electrification Project Broadcasted on TV in 1971
3. 学会等名 Association for Asian Studies (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 名嘉山リサ
2. 発表標題 USCAR 製作テレビ番組にみる文化交流
3. 学会等名 第4回東アジア日本研究者協議会国際学術大会 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 名嘉山リサ
2. 発表標題 USCAR 製作番組と琉米親善
3. 学会等名 沖縄映画研究会 第7回研究発表会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 名嘉山リサ
2. 発表標題 シンポジウム「沖縄の記録と記憶」アメリカ統治期沖縄の産業界の記録 米国民政府企画テレビ映画「沖縄の生産業シリーズ」（1965年）
3. 学会等名 日本映画学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 名嘉山リサ
2. 発表標題 米占領期沖縄で制作された米国製映像に見る戦後沖縄
3. 学会等名 和光大学2018年度連続市民講座（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 名嘉山リサ
2. 発表標題 米占領初期沖縄におけるフィルムの利用 CIE映画や琉球ニュースを中心に
3. 学会等名 沖縄映画研究会 第2回研究発表会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 名嘉山リサ
2. 発表標題 反70年安保闘争米軍協力映画『ある兵士の賭け』（1970年）
3. 学会等名 沖縄映画研究会 第11回研究発表会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 名嘉山リサ
2. 発表標題 起ちあがっていない琉球 沖縄ディアスポラ向けに制作された『起ちあがる琉球』(1953)
3. 学会等名 沖縄映画研究会 第12回研究発表会 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 名嘉山リサ
2. 発表標題 幻の沖縄映画『太陽は撃てない』 宮城嗣吉、大映、米政府間での製作構想をめぐって
3. 学会等名 沖縄映画研究会 第5回研究発表会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 貴志俊彦・泉水英計・名嘉山リサ	4. 発行年 2020年
2. 出版社 不二出版	5. 総ページ数 280
3. 書名 よみがえる 沖縄 米国施政権下のテレビ映像 琉球列島米国民政府(USCAR)の時代	

1. 著者名 貴志俊彦・泉水英計・名嘉山リサ	4. 発行年 2020年
2. 出版社 不二出版	5. 総ページ数 8
3. 書名 よみがえる 沖縄 米国施政権下のテレビ映像 琉球列島米国民政府(USCAR)の時代 DVD編	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------